

# VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 リリース ノート

VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 12686166 | [ダウンロード](#)

VMware vRealize Orchestrator 7.6 Appliance | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 13020602 | [リリース ノート](#)

VMware Site Recovery Manager 8.1.2 | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド 12686166 | [リリース ノート](#)

本リリース ノートに対する追加情報およびアップデート情報を適宜確認してください。

## リリース ノートの概要

これらのリリース ノートの内容は次のとおりです。

- [VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 の新機能](#)
- [VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 の概要](#)
- [インストールとアップグレード](#)
- [ワークフロー例](#)
- [注意と制限](#)
- [既知の問題](#)

## VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 の新機能

VMware vRealize Orchestrator Plug-in for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 リリースには VMware vRealize Orchestrator 7.6 のサポートが含まれています。

## VMware vRealize Orchestrator Plug-In for VMware Site Recovery Manager 8.1.2 について

VMware vRealize Orchestrator Plug-in for VMware Site Recovery Manager を使用すると、Site Recovery Manager の管理者は Orchestrator の堅牢なワークフロー自動化プラットフォームを拡張することで、Site Recovery Manager インフラストラクチャの管理を合理化できます。ワークフローの作成には、Orchestrator クライアントのワークフロー エディタでドラッグ アンド ドロップ機能を使用します。Orchestrator では、このプラグインを使用して、Site Recovery Manager および Site Recovery Manager API の機能にアクセスします。事前ビルドされたワークフローが含まれているため、カスタム ワークフローの作成が簡素化されます。

## インストールとアップグレード

Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager ソフトウェアは、Orchestrator のアプリケーション ファイルとして配布されます。

Orchestrator Plug-in for Site Recovery Manager のインストールは、必ず vRealize Orchestrator のインストールと構成が完了してから行ってください。詳細については、『VMware vRealize Orchestrator 7.6 のインストールおよび構成』ドキュメントを参照してください。

Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager を VMware vRealize Orchestrator 7.6 をインストールする方法の詳細については、VMware vRealize Orchestrator 7.6 のドキュメントの「Install a New Plug-In」のトピックを参照してください。

Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager をインストールしたら、Site Recovery Manager サイト上で vRealize Orchestrator インスタンスと vCenter Server インスタンスの接続を設定する必要があります。vCenter Server との接続を設定する方法については、VMware vRealize Orchestrator 7.6 のドキュメントを参照してください。

Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager のインストールが完了したら、次の手順に従って、vSphere Web Client で Site Recovery Manager ワークフローを確認できます。

1. vSphere Web Client で **[vRealize Orchestrator] > [Workflows（ワークフロー）]** ビューに移動します。
2. 階層を展開して、**[vRO Servers（vRO サーバ）] > [vco\_server] > [Library（ライブラリ）] > SRM フォルダ**に移動します。

Site Recovery Manager ワークフローを実行する前に、**[Library（ライブラリ）] > [SRM] > [Configuration（構成）]** を選択し、次のワークフローを実行して Site Recovery Manager を操作するためのプラグインを構成する必要があります。

1. **ローカルサイトの構成** ワークフローを実行します。

リモート サイトの Site Recovery Manager にログインするには、Orchestrator クライアント セッションごとにリモート サイトへのログイン ワークフローを実行する必要があります。Orchestrator クライアントからログアウトすると、Orchestrator は、自動的に Site Recovery Manager からログアウトします。

Orchestrator Plug-in for Site Recovery Manager 8.1 または 8.1.1 をアップグレードするには、8.1 または 8.1.1 バージョンのプラグインをアンインストールしてから 8.1.2 バージョンをインストールします。

Site Recovery Manager プラグインのアンインストール方法については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールおよび構成』の「プラグインのアンインストール」のトピック、および次のナレッジベースの記事を参照してください。「Uninstalling a plug-in from VMware vRealize Orchestrator 5.5.x, 6.0.x, and 7.x」(<https://kb.vmware.com/kb/2064575>)

ワークフロー例

Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager には、次のようなワークフロー例が記載されており、Orchestrator を用いた Site Recovery Manager の自動化の方法を確認できます。

- 仮想マシンの作成、保護：
  - i. 仮想マシンを作成します。
  - ii. この仮想マシンを既存の保護グループに追加します。
- アレイベースの保護 (ABR) グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランの追加：
  - i. ABR グループを作成します。
  - ii. 特定のデータストアに含まれる仮想マシンを保護するため、このデータストアを保護グループに追加します。
  - iii. 新しい保護グループを既存のリカバリ プランに追加します。

注意と制限

保護サイトが利用できない場合、次のアクションを実行する際に vRealize Orchestrator ワークフローは使用できませんが、代わりに Site Recovery Manager のユーザー インターフェイスを使用できます。

- リカバリ プランの作成、または仮想マシンのリカバリ設定の変更。
- リカバリ プランへのテスト ネットワーク マッピングの追加または削除。
- 既存のリカバリ プランへの保護グループの追加または削除。

既知の問題

- **N:1 共有リカバリ サイト構成内のすべてのサイトに対してユーザーが権限を持っていない場合、vRealize Orchestrator インベントリに Site Recovery Manager サイトが一切表示されない**

1つの vCenter Server インスタンスに対して、複数の Site Recovery Manager インスタンスを配置できます。すべての Site Recovery Manager インスタンスに対して権限を持っていないユーザーがローカル サイトの構成ワークフローを実行すると、vRealize Orchestrator インベントリに Site Recovery Manager サイトが一切表示されません。ユーザーが権限を持っている Site Recovery Manager サイトも表示されません。

回避策：すべての Site Recovery Manager インスタンスに対して権限を持っているユーザーが、ローカル サイトの構成ワークフローを実行します。
- **N:1 共有リカバリ サイト構成内の Site Recovery Manager サイトの 1 つがダウンすると、vRealize Orchestrator インベントリに Site Recovery Manager サイトが一切表示されない**

1つの vCenter Server インスタンスに対して、複数の Site Recovery Manager インスタンスを配置できます。構成内の 1 つの Site Recovery Manager インスタンスがダウンすると、vCenter Server に関連付けられているすべての Site Recovery Manager サイトが vRealize Orchestrator インベントリに表示されなくなります。

回避策：なし。
- **Site Recovery Manager インスタンスを vRealize Orchestrator に追加した後にペアリングすると、そのインスタンスに対するリモート サイトの構成ワークフローの実行が失敗する**

ペアリングされていない Site Recovery Manager を vRealize Orchestrator インベントリに追加し、その後ペアリングした場合、リモート サイトの構成ワークフローを実行すると失敗します。

回避策：vRealize Orchestrator サーバを再起動します。
- **ローカル サイトの構成、ローカル サイトの削除、またはリモート サイトの構成ワークフローを実行すると、リモート サイトに対する既存のセッションが無効となる**

ローカル サイトの構成、ローカル サイトの削除、またはリモート サイトの構成ワークフローを実行すると、ローカル サイトとリモート サイトの間に確立されていたセッションが無効となります。

回避策：リモート サイトに再度ログインします。
- **Server.findAllForType(string type, string query) メソッドを呼び出すとエラーが発生する**

タイプ名のみを使用してのオブジェクト検索はできません。type 引数のみを Server.findAllForType(string type, string query) メソッドに渡すと、次のエラーが発生します：Unable to execute 'fetchAll' for type : ... : 'java.lang.NullPointerException'.

回避策：  
Server.findAllForType(string type, string query) メソッドを呼び出す場合は、オプションの query 引数を渡す必要があります。



企業情報

VMware について

エグゼクティブ マネジメント チーム

自社環境における VMware 製品の活用

ニュースと記事

投資家向け情報

お客様事例

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン

環境と社会への貢献、ガバナンス

VMware の AI

採用情報

ブログ

コミュニティ

買収により合併した企業

オフィス所在地

VMware Cloud Trust Center

COVID-19 関連リソース

サポート

VMware Customer Connect

サポート ポリシー

製品ドキュメント

互換性ガイド

利用条件

ハンズオン ラボと製品のご試用



 [Instagram](#)

 [Blog](#)

 [VMware User Group](#)

 [お問い合わせ](#)

Copyright © 2005-2024 Broadcom. All Rights Reserved. Broadcom は Broadcom Inc. および/または その子会社を指します。

[利用条件](#)

[プライバシー](#)

[アクセシビリティ](#)

[商標](#)

[用語集](#)

[ヘルプ](#)

[フィードバック](#)